

資料館等の 連絡先・開館情報

※詳細は各施設へお問合せください。

- 1 木曾山林資料館 (旧木曾山林高等学校)**
 住所: 〒397-8567 長野県木曾郡木曾町新開4236
 木曾青雫高校新開キャンパス内
 開館: 毎週木曜日 9:30~16:30
 休館: 12月1日~3月末
 入館料: 無料
 連絡先: 0264-22-2007 (携帯電話080-7886-2323)
 H P: <http://kisosanrin.org/>
- 2 御料館 (旧帝室林野局木曾支局庁舎)**
 住所: 〒397-0001 長野県木曾町高島5471
 開館: 4月~11月は9:00~17:00まで
 12月~3月は10:00~16:00まで
 休館: 月曜日
 入館料: 無料
 連絡先: 0264-23-2000 木曾町教育委員会
 H P: <https://www.town-kiso.com/facility/100023/>
- 3 赤沢自然休養林森林資料館・森林鉄道記念館**
 住所: 〒397-8567 長野県木曾町上松町
 小川入国有林 赤沢自然休養林園内
 開館: 4月27日~11月7日
 入館料: 無料
 連絡先: 0264-52-1133 (一社)上松町観光協会
 H P: <http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/policy/business/invitation/rekumori/akazawa/>
- 4 大桑村歴史民俗資料館**
 住所: 〒399-5501
 長野県木曾郡大桑村大字殿1-18
 開館: 9:00~16:30
 休館日: 月曜 (月曜祝日の場合は翌日火曜日)
 及び、12月から2月末
 入館料: 大人200円、小人100円
 連絡先: 0264-55-1020 大桑村教育委員会
 H P: <http://www.kisoji.com/kisoji/history/ookuwa/ookuwamurarekimsiminzoku.html>
- 5 南木曾町博物館歴史資料館**
 住所: 〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町西栗2190
 開館: 9:00~17:00 (催事付: 16:45まで)
 入館料: 大人600円 小人300円
 連絡先: 0264-57-3322
 H P: <http://nagiso-museum.jp/>
- 6 山の歴史館**
 住所: 〒399-5301
 長野県木曾郡南木曾町西栗2941-5
 休館日: 毎週水曜日と12月1日~翌年3月中旬の間
 入館料: 大人500円、中学生250円、小学生以下無料
 連絡先: 0264-57-4166
 H P: http://www.town.nagiso.nagano.jp/kankou/midokoro/nagiso/midokoro_34.html

木曾の歴史 林業の歴史

信州 木曾 林業の歴史を学ぼう



「長野県中部森林管理局所蔵」
木曾式伐木産材図説・上巻5-伐採之図

豊臣時代
豊臣秀吉は、それまでの木曾領主の木曾義昌を過放し、配下の石川光貞・山根主を代官として、木曾全城を自らの領地(官領地)として支配した。

家康時代
関ヶ原合戦後、徳川家康は、木曾義昌旧臣の山村道祐を木曾代官に任じて、木曾の山・川支配をゆだね、江戸城などの建設に備えた。

尾張藩時代
家康の子の義直に封じられ、尾張藩となる。江戸時代初期の播磨・越中・下野などの建設に際し、過大な木材需要は、木曾の森林資源を荒廃させていった。そして尾張藩は1665年に官山制度を敷き、ヒノキを止めとす。

官有林(官林)
「木一木、首ひとごと」と例えられるほど。明治2年の版籍奉還により、それまで各藩が所有していた藩有林が明治政府に官有林に編入され、木曾の森林もほとんど全部が編入された。

御料林
木曾官林は皇室所有の御料林となり、明治23年には代々受け継がれるべき世伝御料林とされ、宮内省御料局(明治41年帝室林野管理局、大正13年帝室林野局と改称)の管理運営することとなった。

国有林
昭和22年帝室財産の解体令により、他地方の御料林とともに国有林に移管され、長野県内の木曾各官林の経営となった。

1947 (昭和22年)

1889 (明治22年)

1871 (明治4年)

1615 (元和元年)

1600 (慶長5年)

1590 (天正18年)

林業遺産

日本森林学会が、学会100周年を契機に、日本各地の林業発展の歴史を将来にわたって記憶・記録していくための試みとして2013年度から始めた認定制度。2017年度までに全国で31件が認定され、長野県内の認定数は6件と全国最多となっています。そのうちの3件が木曾地域にあります。

長野県内の「林業遺産」一覧

2013年度

- 木曾 旧木曾山林学校にかかわる林業教育資料ならびに演習林
- 木曾 木曾森林鉄道(遺産群)

2016年度

- 長野 木曾式伐木産材図説

2017年度

- 木曾 旧帝室林野局木曾支局庁舎および収蔵資料群
- 信濃川 遠山森林鉄道の資料および道具類・遺構群
- 上伊那 進徳の森と中村第六の開運資料群

知みんな? 木曾五木

- 資料/長野県中部森林管理局
- 1 ヒノキ**
 木曾のヒノキは、日本の木材の中で最も優秀なものの一つとされます。材は密で香りと光沢があり、とても堅く、腐朽にもよく耐えます。
 - 2 サワラ**
 日陰に強く、沢地などで幹を直立させよく育ちます。水気に強いので、家具や建具のほか、桶の材料になります。
 - 3 ネズコ**
 富山県の黒部渓谷に多いことから、「クロバ」という別名もあります。木材には独特の香りがあり、黒褐色の光沢があります。建具や下駄などに使われます。
 - 4 アスナロ**
 別名ヒバ。日陰にとても強く、よく生長します。木材は水に強く、船の材料などに使われます。名前の由来は「明日ヒノキになるう」というところから。
 - 5 コウヤマキ**
 和歌山県の高野山によく見られるのが名前の由来。一箇一種で、日本特産の樹木です。木材は水に強く、船や桶などに使われます。

信州・木曾地域の 林業の歴史を 辿ってみませんか

「木曾路はすべて山の中である」
文豪・島崎藤村の小説「夜明け前」の冒頭の有名な一節です。長野県の南西部に位置し、中央アルプスと御嶽山系に挟まれた木曾地域は、ヒノキをはじめとした美しい森林に覆われた山々に囲まれ、面積の9割以上を森林が占めています。この地域では、豊かな森林資源を活かして、古くから林業が盛んに行われてきました。今も、かつてこの地域で行われてきた林業の姿を垣間見ることのできる資料が各地に残っています。このリーフレットを片手に、そんな場所を巡って、木曾の林業の歴史や昔の人々の暮らしに想いをはせてみてはいかがでしょうか。

問い合わせ
長野県木曾地域振興局企画振興課
☎0264-25-2212 発行 2019年3月



1 木曾山林資料館 (旧木曾山林高等学校)



- 明治34年に我が国初の林業科をもつ実業学校として誕生した「木曾山林学校」。大正元年の校舎移転新築の際に設けられた「林業標本室」が100年以上にわたって受け継がれ現在に至る。
- 明治から現代まで生徒が使用した林業関係の教科書、ドイツ林学の原書、生徒が残したノート、学校や校友会の刊行物、実習に用いた測量器械や測樹用具、国産材・外材の木材標本（材鑑）等、3000点を越える膨大な資料を所蔵。その他林業史を中心とした蔵書も2000冊を越える。
- 所蔵する「林業教育資料」と、資料館の目の前に広がる約58haの「漢留林」は、2014年3月に「林業遺産」認定。



2 御料館 (旧帝室林野局木曾支局庁舎)



- 木曾谷最大の西洋建築を昭和2年建設当時の図面をもとに復元改修。三方にアーチを持つ玄關の車寄せと屋根中央部にある八角形の塔壁が特徴的な、シンメトリーの美しい建物で、アールデコの意匠もみられる。
- 御料林時代の文書や通覧類など、貴重な林野行政の史料を展示。明治14年の第二回内閣勲業博覧会に出品された「木曾谷模型」や動植物の標本も数多く収蔵。
- 2012年11月に木曾町有形文化財に指定。
- 2018年3月に「林業遺産」認定。



3 赤沢自然休養林森林資料館・ 森林鉄道記念館

- 日本三大美林の一つ樹齡約300年の木曾ヒノキを見学でき、「森林浴養祥の地」とも知られ、貴重な常緑性針葉樹林として「木曾悠久の森」と呼称され保護されている。
- 森林資料館では、江戸時代の運材方法である「流送」の資料や伊勢神宮式年遷宮用の木材を切り出す「御輪始祭」の資料を展示。
- 鉄道記念館には「ボールドウィン蒸気機関車」など林業の資料、赤沢自然休養林内には流送時代の「床履」が見られ、木曾谷で行われた当時の林業を知ることができる。



木曾地域 林業の歴史 散策マップ



4 大桑村歴史民俗資料館

- 村内から切り出した木材を用いて、伝統的な小屋組技法で築造。
- ひときわ目を引くのが、展示室ホールの高い天井を支える5本の大きな柱。「木曾五木」が1本ずつ使われており、木肌の違いを見て、触れて感じることができる。
- かつて使用されていた山仕事の道具類のほか、玄関ホールには樹齡約300年の歴史を語る木曾ヒノキの切り株を展示。



5 南木曾町博物館歴史資料館

- 重要伝統的建造物群保存地区の妻籠宿内にあり、重要文化財指定の「脇本陣奥谷」、復原した妻籠宿本陣と共に南木曾町博物館を構成。
- 木曾谷での林政の変遷や施業の様子を知ることができる資料や、山仕事の道具類等を展示。
- 博物館分館の「田立民俗資料館」には、住民から提供された山仕事の道具類も多数展示。



6 山の歴史館

- 御料局が山林を管理するため明治32年に妻籠宿本陣跡地に建てた洋風建築を移築復元。平成18年に県宝指定。
- 木曾谷での林政の変遷や施業の様子を知ることができる資料や、山仕事の道具類等を展示。
- 長輪藤村の元で妻籠本陣の当主助が関わった「御料林事件」についても解説。
- 敷地内には、かつて森林鉄道を走った機関車も置かれてい。



📍 林業教育を行っている教育機関

木曾森林鉄道 (遺産群)

木曾森林鉄道は、大正初期から昭和40年代にかけて、木曾地方で運用されていた森林鉄道の総称。木曾ヒノキ等の木材輸出に用いられ、歴史と規模の大きさ等から国内の森林鉄道の代表的存在だった。木曾地方では多くの鉄道施設跡を見ることが出来る。
2014年3月に「林業遺産」認定。